

このたび、新しくつくる小中一貫教育校の「基本構想・基本計画」をまとめました。子どもたちを含む多くの町民の皆様の声を集め、未来の教育を見据えて描いた「基本構想・基本計画」の概要を町民の皆様にご紹介いたします。



基礎となる考え方



真鶴町がめざす子どもの姿

- 多様性を尊重できる子
- 関わる力をもった子
- 創り出す力をもった子
- 発信する力をもった子
- 心の豊かな子
- ふるさとを大切にする子

真鶴町のまちづくり条例

真鶴町の教育理念

「教育は人づくり、
人づくりはまちづくり、
まちの未来づくり」



- ・場所を尊重し風景を支配しない。
- ・建築の各部に格付けを行う。
- ・人間的な尺度を大事にする。
- ・自然・町との調和を大事にする。
- ・地場材料・自然な材料を使う。
- ・心を豊かにする芸術を施す。
- ・コミュニティを育む建築を行う。
- ・美しい眺めに参加する。

<1994(平成6)年施行>



幼(保)小中一貫教育の基本コンセプト

学びの連続性の実現

タテの関係

- ★ 学年代階の区切りの工夫
 - ・4-3-2制の導入
 - ・前期課程の教科担任制
- ★ 魅力的なカリキュラムの編成
 - ・主体的に創造・選択・実践できる活動の推進
- ★ 異学年交流の充実
 - ・様々な組み合わせによる幅広い教育活動
- ★ 教職員の相互乗り入れの活性化
 - ・系統的・継続的な児童・生徒指導
- ★ 特別支援教育の充実
 - ・インクルーシブ教育の推進
- ★ 教職員の働き方改革の推進
 - ・校務支援システムの効果的な活用

新たな教育活動の創造

ナナメの関係

- ★ 新教科「まなづる未来学(仮称)」の創設
 - ・非認知能力や自らの学びをデザインする力の育成
 - ・「半島まるごと学校」の推進
- ★ ICT教育の推進
 - ・プログラミング教育の充実と論理的思考力の育成
 - ・情報活用能力の育成と情報モラル教育の充実
- ★ 外国語教育の推進
 - ・英語の習得とコミュニケーション能力の育成
 - ・英語圏の児童・生徒とのオンライン交流活動の実践
- ★ 広域交流の推進
 - ・半島留学システムの構築
 - ・プール等民間施設や近隣学校・自治体等との連携

学校と地域との連携強化

ヨコの関係

- ★ コミュニティ・スクールの構築
 - ・幼小中一貫教育学校運営協議会(仮称)の立ち上げ
 - ・地域が支えるクラブ活動・部活動の推進
- ★ 共創空間(複合施設)化の推進
 - ・地域コミュニティの場としての学校づくり
 - ・避難所機能の充実と町の防災教育の拠点づくり
- ★ 他機関との連携強化
 - ・教育子育て支援員等を通じた保育所との連携
 - ・戦略的広報の充実

未来にはばたけ！

半島まるごと学校

小中一貫教育校の施設計画の目標

生活

安全・安心で心地良く過ごせる居場所づくり

交流と多様性をキーワードとした学びの場づくり

学び

心

一人でも安心して過ごせる居場所づくり
・9年間の心身の発達に配慮した保健室・心の相談室
・ほっとできる場所となるトイレ空間

多様な交流とつながりを生み出す場づくり
・横断的な学びや、対話的活動・表現活動が活発に展開できる場

安全

安全で安心して過ごせる学校生活空間づくり
・子どもが安心して安全に利用できる遊び場や屋内・屋外運動場

「多様性」と「本物」を生かして学ぶ場づくり
・学ぶ意欲、興味、関心を高められる学び心地の良い教室環境

サードプレイス

すべての子どもたちの居場所づくり
・成長段階に配慮し、児童・生徒一人一人に応じた多様な居場所

・ビオトープや学校菜園、池など生き物にふれ合える空間

身体

身体の成長を支える環境づくり
・四季を通じて快適に過ごせる室内温熱環境

個に応じた学びを充実できる場づくり

・多様な教育的ニーズに応じた学習に取り組める教室環境

健康

食の大切さを学び・食に親しめる施設整備
・真鶴の食材を生かした食育活動が展開できるランチルーム

成長を実感しながら学べる場づくり

・教科の魅力を生かして学べる教科センター方式

教職員の働きやすさを追求した環境整備

・同僚性を高め、互いに相談したり協働したりしやすい職員室

子どもも、大人も、いつでも学べる(チャレンジとリトライ)場づくり

・地域に開放され、学習情報センターとなる学校図書館
・町民と学校の連携・交流拠点となるコミュニティスペース

真鶴の伝統文化を学び伝える拠点の創出

・ふるさとの宝を継承する「ふるさと学びルーム」やギャラリー

防災・減災拠点(避難所)としての機能の充実

・体育館を含めた、大地震等にも耐え得る施設整備
・主たる避難場所と連携し、炊き出し機能を備えた給食調理施設

子育て支援スペースの充実

・放課後児童クラブ、放課後子ども教室の活動スペース
・幼稚園・保育所の園児が学校に訪れた際の活動スペース

町の景観に相応しい学び舎づくり

・美の基準を生かした建築デザイン
・自然光を生かした明るい学び舎

社会の変化に対応できる長寿命な施設づくり

・間仕切りなど変更が容易な建築構造
・快適に利用できるネットワーク環境

エコスクール

・断熱性等を高めた温熱環境
・木材利用(木造、内装木質化)
・適切な緑化

周辺環境の改善

・横断歩道や信号機の設置等、登下校時の安全確保
・周辺道路環境の改善

共創

地域と連携・協働し創造する空間づくり

真鶴の魅力を生かした学び舎づくり

環境

次ページでは、建設スケジュールや校舎の配置案についてご紹介！

前ページに引き続き、より具体的な施設構成や建設スケジュール、校舎の配置案の概要をご紹介します。



計画条件

- ・真鶴中学校の校地を新校地とする。
- ・給食施設は自校方式とする。
- ・体育館は既存の町立体育館を使用する。
- ・新校舎の計画床面積は7,000㎡とする。

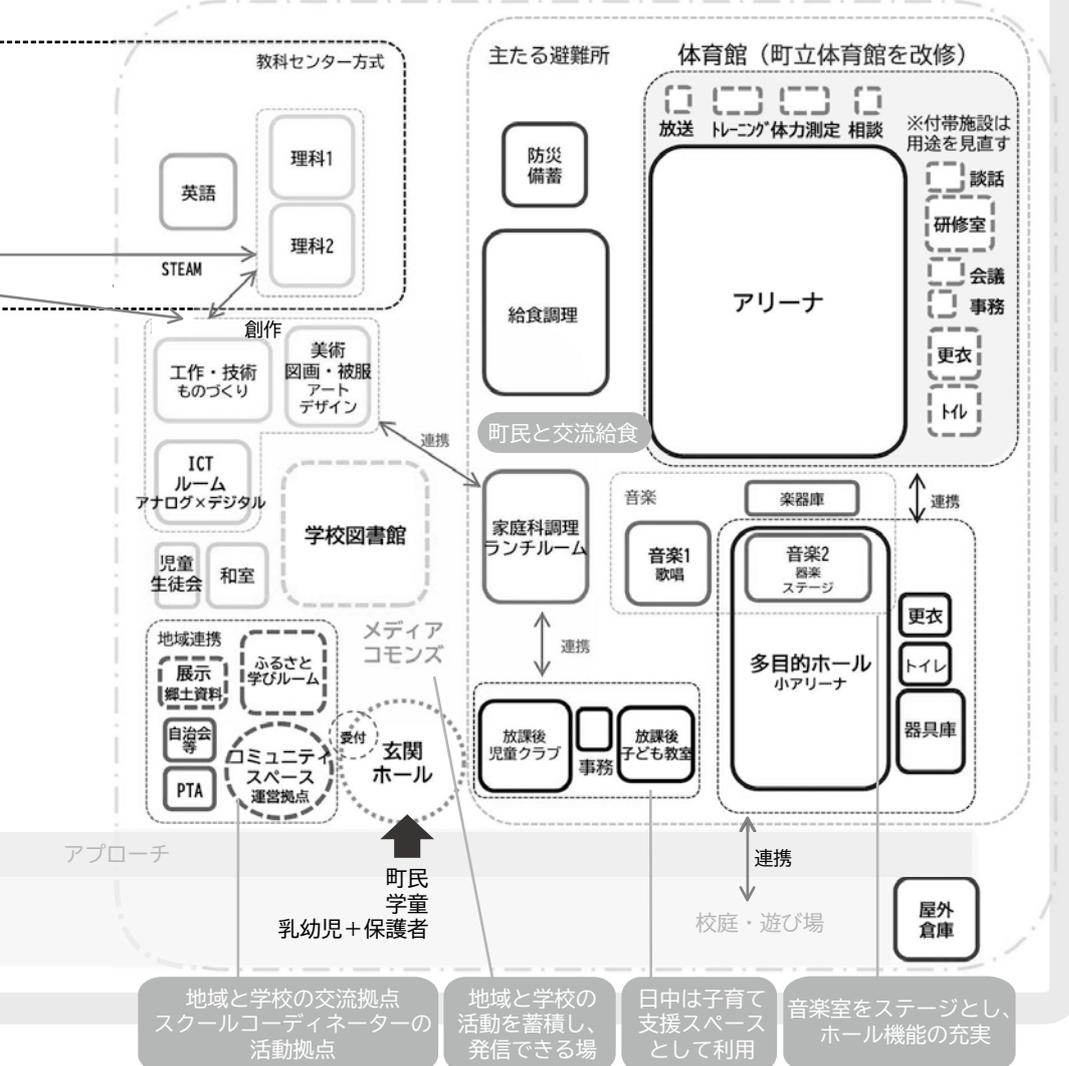


施設構成(各室等のつながりやまとまり、ゾーニング)の考え方

教室と管理諸室による「学校ゾーン」と、学校図書館と特別教室、体育館、放課後クラブ等の子育て支援スペースによる「コミュニティ・スクールゾーン」で構成する。それぞれのゾーンを明確にすると同時に、ゾーンを超えたつながりを確保する。

施設構成(模式図)案

コミュニティ・スクールゾーン(地域と学校の共創空間)



気軽に訪れることができる共創空間



居心地の良いコミュニティスペース

発達段階に応じて変化する教室まわり



多様な活動が行えるゆとりある教室

本格的な活動ができる特別教室



創作の場となる「アトリエ」

交流の場となる職員スペース



打合せもできるソファコーナー

半島まるごと学校とは

教育や学ぶ場は校舎内だけではなく、町全体・半島全体が学校であるという考えのもとに成り立っている、学校建設の象徴的な言葉です。

建設スケジュール(案)

2030年4月開校をめざす。既存校舎の解体工事のため、2026年度には中学校が小学校の現校舎に移転する。

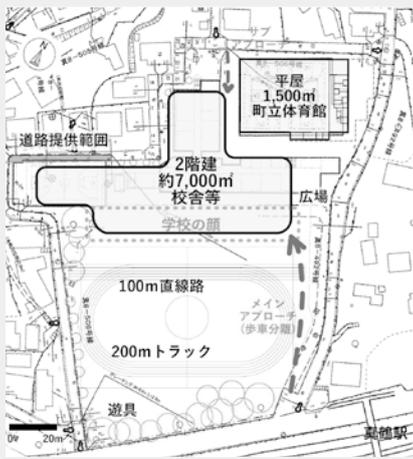
2030年度開校の場合

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
計画	基本計画						
設計		設計者選定3ヶ月 基本設計9ヶ月	実施設計 12ヶ月 (実質9ヶ月※)				
工事等			仮校舎改修工事 3か月程度 引越(夏休み) 着工 解体工事		新築工事		竣工・引越 開校
			← 仮校舎使用期間 (3年強) →				

配置計画案

【課題】

- ・新校舎は町立体育館との接続を考慮し、配置する。
- ・駐車場と歩行者のアプローチが混在している状況を改善する。



A案

新校舎を北側に配置する案

- 南に開かれたまとまりの良い校庭が確保できる。
- アプローチは現在と同様に南東角に確保し、東側道路と歩車分離を図る。
- 北側住宅地の日照や通風、音対策に配慮が必要となる。



B案

新校舎を東側に配置する案

- 南東角からすぐに校舎に入ることができる。
- 北側の住宅地の日照や通風が良くなる。砂塵対策を行う必要がある。
- 既存校舎は校庭より1m程度高いため、この場所を校庭にする場合は切土工事を行う必要がある。
- 隣地の一部に土砂災害警戒区域があるため、防災対策の必要がある。

※本図は校舎の配置可能性を示すものであり、校舎の形を示唆するものではありません。

教科センター方式の移行段階と捉えたホームルーム

教科の専門性を生かせる学習環境を重視した教科教室

